

【総評】

- 構成は例年通り，大問4問。それぞれに小問が3問または4問あり計13問。
昨年と比べてやや解きやすい問題であったが，高度な想像力が必要な問題やていねいに調べ上げるために長い時間が必要な問題が複数あり，得点しづらい。
3～4問間違え（およそ70～75点）が合格ラインと思われる。
- 「時間のマネジメント」と「解くべき問題の取捨選択」が合格のカギになるのは、筑駒算数の一番の特徴である。本年度の問題では，大問3の(3)は難問で正答率が低く回避して大問4の調べ上げる点の移動の問題を余裕をもって取り組めたか否かがカギとなった。
- 出題内容としては，規則性，数の性質，立体図形と場合の数，立体図形の辺上の点の移動。単元としては過去にも出題例のある内容から出題されているが，立体を題材とした問題が大問で2題出題されたのが目をひいた。しかし，考え方はいつもの筑駒と同様に(1)を利用して工夫して解く場合の数や，表を書いてていねいに調べる点の移動であった。

【細評】

〔1〕規則性 小問3問

半径5cmの大円と半径4cmの小円がそれぞれ毎秒半径が1cmずつ大きくなっていくときの、「時間」と「大円と小円の面積の差」について考える問題。連続する平方数の差をならべていくと，奇数の数列になることに気づく。(1)(2)は確実に。(3)で差がつくか。

〔2〕数の性質 小問4問

整数を横1列に12345678910…などのようにならべたときの、「2」や「0」の個数やケタ数を求める(1)(2)(3)は定番の典型問題。(4)は「1」「2」「0」のみを使って1から2021まで並べるN進数の問題で10進数に変換してていねいに個数を数えて確実に正解したい。

〔3〕立体図形と場合の数 小問3問

(1)は正方形を2つ並べた長方形に正方形の頂点6個を示し，そのうちの2個以上の点を通る直線を2本ひいて，長方形の外で交わる点の個数を考える問題。(2)(3)はこれを立方体を積み重ねた直方体にして同じように考える問題。空間認識と数え上げが難しい。(2)が正解できれば素晴らしい。(3)は回避問題か。

〔4〕立体図形と点の移動 小問3問

三角柱の底面に垂直な3本の辺上を3点P，Q，Rが動くときに，底面と三角形PQRが平行になる時間を求める問題。3点の動きを20秒間調べれば正解できる，筑駒では出し尽くされたパターンの問題。ていねいに解けば正解できるが，最後の問題なので時間が足りたか，戦略的に解く順番を考えられたかが問われる。